

モロッコの化石と鉛鋳床

<石原 舜三・松任谷 滋>

モロッコにはデボン紀炭酸塩岩中の直角貝(orthoceras)・アンモナイト、白亜紀チョーク質石灰岩のアンモナイトなどの化石が多産する。デボン系のは特に有名で、テーブル・プレートなどの装飾品として世界各地に輸出されている。この地層はモロッコ南東部から南西部にかけて分布し、石灰岩中でファコプス・小型オルソセラス・ゴニアタイト、泥灰岩中でアンモナイト・直角貝、頁岩中で小型三葉虫などが特徴的である。またモロッコの炭酸塩岩中にはミシシビ・パレー型鉛・亜鉛鋳床が分布する。



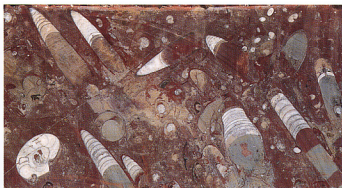
1. モロッコ南東部、マイデルの平原の露岩風景。砂を除くとフレッシュな化石層が見れる。



4. ミブラデンのドロマイト・石灰岩に伴う鉛鋳床。白色部が鉛化ホライゾン。



2. 露岩のクローズ・アップ。直角貝とアンモナイトが見事。



3. 加工中のモロッコ南西部の岩板、褐鉄鉱の色で赤味を帯びる。



5. 鉛石のクローズ・アップ。主に方鉛鉱、Znはカラミンとしてのみ産出。



6. 酸化帯に咲く花-褐鉛鉱($Pb_3(VO_4)_2$)。六角板状結晶が見事(等倍)。